

道を見つけたフェリペ

メーガン・ロクサス

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)



フィリピンには
7,600以上の
島があります！



この国には、世界の
植物と動物の種類の
70パーセントが
生息しています。



もうすぐフィリピンには
8つ目の神殿が
建ちます。

フェリペは、もうおそい時間になってきているのがわかりました。鳥はさえずるのをやめ、コオロギが大声で歌っています。フェリペとお母さんは森の中をもう2時間以上歩いていました。でも、二人が通る道はどれも少し前に歩いた道と同じように見えます。完全に道にまよってしまったのです。

フェリペはほんとうにこわくなってきました。このジャングルでどのくらい生きのびることができるでしょうか。何しろフェリペはまだ10才で、ヘビやイノシシが出てきても戦うことはできません。日がしずんだら、ほかにどんなおそろしい生き物がうろつくのでしょうか。そう考えるだけで、せすじが寒くなりました。

「勇気を出すんだ」とフェリペは自分に言い聞かせました。勇気を出さなければいけないとわかっていました。

フェリペはお父さんがここにいたらいいのと思いました。でも、お父さんは6か月前になくなりました。お父さんがいないと、フェリペとお母さんは大変でした。お金や食べ物になかったのです。

フェリペは、早く山の向こう側のお姉さんの家に行けたらと思いました。そうしたらお米をかうお金をもらうことができます。

フェリペは心の中でいりました。「天のお父様、道を見つけれられるように助けてください。お願いします。」

すると、ココナツの木をさがしなさいという思いがうかびました。フェリペが顔を上げると、遠くにココナツの木立がありました。ジャングルのほかの場所よりも高く見えます。ココナツの葉がそよ風にゆれています。数時間ぶりに、フェリペは希望を感じました。

「見て！」フェリペはココナツを指しました。

お母さんはわかりました。ココナツの木があるのは、村が近いということでした。神がフェリペのいのりにこたえてくださったのです。フェリペはお母さんの手を取って、太陽が木々の向こうにずんでいく中で、一緒に安全な場所へ向かって歩きました。

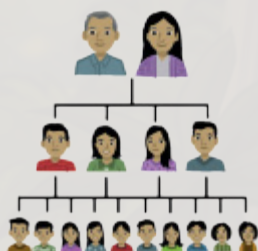
フェリペはその後いつも、神が自分のいのりにこたえてくださったことを覚えていました。時々、あのジャングルでの夜のように、神の声がもっとよく聞こえたらいいのと思うことがありました。



フェリペとつまは、
結び固めを受け
神殿に行くために、
1年かけて
お金をためました。



フェリペはつりが
大好きです。



つまのコーラとの間に、
4人の子供と
10人の孫がいます。

「道を見つけれられるように
助けてください」と
フェリペはいりました。

それから8年後のある日、フェリペは何人かの宣教師に会いました。末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師たちでした。宣教師は、神の言葉を語る生ける預言者について教えてくれました。これこそ、フェリペが望んでいたものでした！

フェリペはよろこんで教会に入りました。フェリペはフィリピンで福音を伝えたフィリピン出身の最初の宣教師の一人となりました。神はふたたび、どこに行けばよいかをフェリペにしめされたのです。そしてフェリペは、神がいつもそうしてくださると知っていました。●

